



第24号

平成24年2月17日発行

The Taki Town
Council Newsletter



CONTENTS

■こんなことが決まりました	2
■一部事務組合より	3
■現地視察	3
■一般質問 定例会一般質問	4-8
■獣害対策レポート	9
■議会のうごき	9
■インタビュー 多気のまちかどから	10
■次回定例会	10
■たきの風	10

鬼たいじだ!!追いかける

(勢和保育園にて)

発行:多気町議会 編集:議会広報特別委員会

住所:〒519-2181 三重県多気郡多気町相可1600
TEL:0598-38-1120

<http://www.town.taki.mie.jp/chousei/gikai.html>

こんなことが決まりました

第4回定例会 12月13日～12月16日
第3回臨時会 11月28日

一般会計補正予算

補正額 2452万円

補正後の総額 74億2166万円

【主な使いみち】

- 生活保護扶助費 2500万円
- 町道成川玉城線補修工事 2000万円
- 災害復旧事業費 210万円
- 相可小門扉工事 300万円
- 相可小エレベーター工事設計費 190万円

【主な財源】

- 国庫支出金 3521万円
- 県支出金 663万円

条例の制定

○議会の議決すべき事件を定める条例

全員賛成

※松阪市と周辺の町との連携による「定住自立圏構想」において自立圏形成協定の締結・変更・廃止を行う場合に通告を必要とする。

条例の一部改正

○職員の給与に関する条例の一部を改正

賛成多数
※人事院勧告に伴う給与等の引き下げ

指定管理者の指定

○一般職の任期付職員の採用等に関する条例の一部を改正
賛成多数
※人事院勧告に伴う給与等の引き下げ

○公の施設に係る指定管理者の指定

全員賛成

※勢和台スポーツセンター及び農林漁業者等健康増進施設（体育館）並びに勢和東体育館の指定管理者に多気町体育協会を指定

人事

○固定資産評価審査委員の選任

河村 好宏氏（油夫）再任
任期 平成24年3月1日～平成27年2月28日

山本 善昭氏（丹生）再任
任期 平成24年3月1日～平成27年2月28日

奥田 孝氏（相可）新任
任期 平成24年3月1日～平成27年2月28日

○教育委員の任命

青木 勝平氏（波多瀬）新任
任期 平成24年3月1日～平成28年2月29日

○人権擁護委員の推薦

渋谷 仁氏（井内林）新任
任期 平成24年4月1日～平成27年3月31日

藤井 民子氏（相可）新任
任期 平成24年4月1日～平成27年3月31日

秋山 久美子氏（五佐奈）再任
任期 平成24年4月1日～平成27年3月31日

一部事務組合より

松阪地区広域消防組合

第4回定例会

○平成23年度補正予算

補正後の総額

27億9454万円

○平成23年度市町分担

金の変更

○職員定数条例の一部

改正

多気学校給食

センター管理組合

第1回臨時会

○教育委員の任命

○平成23年度補正予算

補正後の総額

1億2819万円

松阪地区広域衛生組合

第4回定例会

○平成23年度補正予算

補正後の総額

3億2440万円

○平成23年度市町分担

金の変更

宮川福祉施設組合

第2回定例会

○平成22年度一般会計

歳入歳出決算

○平成22年度介護サービス

事業特別会計歳入歳

出決算

○平成23年度一般会計

補正予算

補正後の総額

1億961万円

○平成23年度介護サービス

事業特別会計補正予算

補正後の総額

3億7504万円

多気町松阪市学校組合

第1回臨時会

○平成23年度補正予算

補正後の総額

9146万円

報告 視察 議員 議

「植物からプラスチックを」

三重大学生物資源学科の

船岡研究室を訪ねて

昨年十一月にウッドピアと立地協定を締結したバイオプラスチック実証プラントの詳しい内容を知るために共同研究を行っている三重大学を訪ねた。

意外とシンプルな器械の組み合わせに見えた。

生物資源学科の船岡^{ふなおか}教授は、基礎知識の無い我々にも理解できるように易しく説明されたので、詳しい内容はともかく、大まかな概要は想像できた。

多気町での実証プラントが成功し事業レベルでの本格的稼働となれば、放置されている間伐材や経費をかけ処分されている刈り草、モミガラ、畜産の糞等も有益な資源に利用できる。

樹木等を分子レベルで見ると、セルロースとヘミセルロースの隙間にリグニンが複雑に絡まっている。

クリスタル工業団地を中心に各種企業が誘致できればと希望がふくらむ。

船岡研究室ではこれを熱も圧力も加えることなく分離する手法を開発。セルロースはエタノールの元になる糖に、リグニンはプラスチックだけではなく多方面の産業で使う事のできる素材原料だ。

二時間ほどの講義の後、構内に設置された実験用1号プラントを見学。高さ3mほど、10m四方のフェンスに囲まれたプラントは



植物資源変換システムプラント

はい!!

質問

第4回定例会 9人が一般質問

12月定例会の一般質問は、12月14日に行われました。今回の質問者は9人で、防災、環境、福祉、教育、などについて、町の考えをいただきました。

少なくないか町単事業

前川 勝議員 4頁

どう取り組む「戸別防災無線受信機」導入への道すじ

中森 一秀議員 5頁

クリスタル工業団地の経過と今後の問題

東山 義美議員 5頁

どうする学校プール、温水プール

山口 英子議員 6頁

地域の文化祭を大切に

中西 眞喜子議員 6頁

必要か利用率の上がらない
証明書自動交付機

小林 正夫議員 7頁

自衛隊ヘリコプターによる
騒音対策は

中西 敏雄議員 7頁

役場庁舎の電力契約を独立系
電力会社(PPS)に変更し
経費を節約しては

西川 浩議員 8頁

住民自治協議会を創設し
地域の活性化を

中野 正宣議員 8頁

少なくないか町単事業

答 町税収入減で厳しい財政

前川 勝議員

問

町長は町単事業を多くして、地元企業にも潤って頂くとしていた。しかし、町民の望む建設課の事業が平成23年度各区から要望のあった138件の申し込みに対し、26件の採択で実に2割弱である。

申込数に対し採択数が少なくないか。また、採択・不採択はどのように決めるのか。

答

(町長)

23年度当初で1億円を超える収入減の中、社会保障費の増加もあり編成時に頭からカットした。結果、前年比35%減となった。事業を決めるのは、基本的に各区1件である。

問

子どもたちの安全・安心、また、救急車両通行の道路確保、災害対策が最優先事業と考えるがどうか。

答

(町長)

まだ狭い道もあるが、町単では財政厳しいので、国・県の補助事業を見ながら進める。

答

(建設課長)

優先順位は、幹線道路・通学・里中道路の順で、幅員4m以上をお願いしている。

問

手厚い町単事業の実施に向ける町長の考えはないか。

答

(町長)

町内事業者にも

く仕事をして頂く思いがあり、児童館の建設を地元企業でやってもらっている。

今後、建設、福祉、教育、環境などあらゆる分野に取り組んで行きたいと考えている。

TPP対策は

どうするのか

答 今は考えられない

問

平成23年11月11日に野田首相はTPPへの交渉に参加するよう表明され、大きな確率で前進する様相であり、当町農業・農家を守る対策を立てる必要があるがどうか。

答

(町長)

国も県も対策を示していないく、ベースとなるものが無いので、小さな町で対策を立てるのは考えられない。

どう取り組む「戸別防災無線受信機」導入への道すじ

答 無線方式かケーブル方式か
現在調査検討中

中森 一秀 議員

問 「防災対策は納税者たる町民への社会保障」との理念を本に、戸別防災無線受信機の導入設置にかかる諸事項について検証したい。

- ① 導入予定機種的方式は。
- ② 見積り業者は何社か。受注契約の方法は。競争入札が望ましいかどうか。
- ③ 機種決定の注意点と最終的な決定責任を負うのは誰か。
- ④ ケーブルTVのケーブルを利用した戸別受信システムとは。
- ⑤ 設置に際しての「受益者負担の考え方と根拠」は。
- ⑥ 多気地域に設置の戸別受信機のアナログ

答

(総務税務課長)

- 免許の再々の更新はデジタル化への方向に逆行する。再延長は矛盾すると思うがどうか。デジタル化への費用と整備に要する期間は何年か。
- ① 現在各地区公民館等に設置している機種を予定。
 - ② 業者は日本電気と松阪ケーブルTVの2社。無線方式は各戸に電波受信用の屋外アンテナが必要となり、ケーブル方式の場合は未加入が問題である。
 - ③ 無線方式・ケーブル方式ともメリット、デメリットがありもう少し検討したい。機種の決定は政策調整委員会

で決める。

- ④ このシステムは、ケーブルTV加入者のケーブルを利用して、別の回線を設け戸別受信機を接続、緊急放送の場合にはTVに割り込み、屋外防災行政無線と同様の情報を伝えるもの。
- ⑤ 戸別受信機設置を希望する住民と設置不要の住民がある。設置希望者にはある程度のご負担を願う方向で考えているが、未だ固まっていない。
- ⑥ 総務省電波監理審査基準に基づき早急にデジタル化へ対応する。デジタル化に要する費用は、無線の場合初期投資費用として4億1,900万円が必要となり、ケーブルの場合は、1億6,300万円の初期投資費用とケーブル回線使用料として年間1,100万円の費用が掛かる。整備期間はおおむね3年を見込んでいる。

クリスタル工業団地の経過と今後の問題は

答 今後大きな成長が見込まれるバ
イオマス産業分野等の企業誘致
を進めていく

東山 義美 議員

問

今年は、東日本大震災以降世界的に数々の大きな問題が起き日本経済を含め時代の流れが一変した大変な年であった。

そのような厳しい世情の中で多気町はクリスタル工業ゾーン(以下工業ゾーン)の開発計画を進めているが、企業誘致の見通しはどうか。

ている。大震災の影響、景気の低迷と円高の影響で海外進出傾向が強く、新規の工場建設が激減している。

このような中で、今後大きな成長が見込まれるバイオマス産業分野での技術開発研究機関と新たな事業展開を検討している企業を誘致する方向に進めていく。その一つとしてバイオプラスチックやバイオマス発電等を中心とした複数の企業と交渉中である。このたび新世代の技術を活用した実証プラント工場の立地協定を11月28日に締結した。

その他の質問
福祉・環境衛生について



土取り造成中のクリスタル工業団地

と土地売買契約を締結し、用地費は企業の立地が決定した段階で一括支払いとする契約内容であった。しかしその後契約書の一部を修正、全地権者に用地費の5%を支払った。仮登記については、登記簿に所有権移転請求権仮登記として、売買予約契約締結期日が記載されている。誘致条件となる工業用水の確保は重要。誘致企業が無い現在では用水の供給量が不明であるため井戸掘削は判断できない。

どうする学校プール、温水プール

答 温水プールありきではなく改修も含めて検討していく

山口 英子 議員

問 学校プールを一元化して温水プールにとの計画が進められているが、財政的に考えれば集約するのが正当な考えだと思う。しかし、将来の多気町を担う子どもたちを考えた場合、重大なことをどこかへ置き忘れてはいないだろうか。

者より、改修してはどうかとの提案があったことから、改修も選択肢の一つになったようだが、改修費が高額になった場合はどうするのか町長に聞く。

答 (町長) 改修に多額の費用がかかるということになれば、温水プールでやっていこうと思っている。

懇談会の後でPTAのある方から、「これから子どもたちの人数を考えた町一つにしていくべきだ。(学校統合)町長の口からそのことを言っただけだった。」と言われた方もあった。

平成30年には町全体の入学児童数は80人を切ってくる。このような状況で各校にプールを

新築することは、町民の皆さんから先のことは考えていなかったのかとお叱りを受けることは必至である。将来を見据え改修も含め、慎重に検討していく。



佐奈小学校プール

地域の文化祭を大切に

答 今後も成果を発表する場として開催していく

中西 眞喜子 議員

問 今年も勢和地域の文化祭は、例年の日程通り行われた。50年以上続けられてきていて、多くの人

が楽しみにしている行事で、毎年大変賑わう。ところがなぜか、いつものような活気がなく寂しい思いがした。

体力測定や、演芸部門の人たちはなごやかで、展示作品もどれも力作で、作者の気持ちや伝わり、嬉しく感じているのになぜなのか。

小、中学生みんなの作品展示がないのに気づいた。親子の会話や、孫の成長を喜んでみえる祖父母の姿がなく、

いつものパワーを感じとれなかった。家族の絆のパワーこそが教育の原点であると信じ、また地域の元

気は、「仲間づくり」にあると強く思う。今回の文化祭の分析と、今後の運営方法を聞く。

答 (教育課長)

本年度より勢和教育係が廃止となり、教育課に一本化され、教育委員会主催で「生涯学習フェスティバル」を開催し、町内各公民館の講座や教室の受講生等、全ての方々を対象に

の児童の作品も展示している。

近年は、ともに出展数や出展者が減少傾向で、両イベントを一つにし、より盛大にしてはどうかという話し合いの中で、規模を小さくしてもいいから続けたいとの意見で、本年の開催となった。雨により、400歳ソフトボールが中止となったことも一因であった。

答 (教育長)

文化祭は、日頃の文化活動の発表の場であり、やりがい生きがいにつながる場である。また、そこを中心に

言われるように地域づくりの原点ともつながっていく活動だとも思う。本当にみんなが元気の得られる文化祭にしていきたい。

必要か利用率の上がらない 証明書自動交付機

答 一定の利用がある 利便性を
広報誌等でPRし、さらに
利用者を増やす努力をする

小林 正夫 議員

問 現在マックスバ
リユー多気の町
情報ステーションコー
ナーに設置されている
証明書自動交付機だ
が、利用状況とこれか
らの考え方を問う。

国の推進するIT化
に県下で2番目の速さ
で導入した交付機だ
が、カードの発行枚数
は伸びず、利用頻度の
低い交付機を、経費を
かけて置いておく必要
があるのか。

答 (町民福祉課副
参事)

平成22年度末の累積
交付枚数は2522件で
対人口比率16.2%。県
下ではトップの交付率で



マックスバリュ多気内の自動交付機

あり、交付機利用回数
は591件。
全発行数の5.2%。
休日夜間の利用が49%。

買い物のついでに手軽に
利用されていると推察
する。

国の推進する事業と
言う事で現在も七割以
上の補助が出ている。

多額の費用をかけ設
置した自動交付機であ
り、マックスバリュと情
報ステーションの契約、
機械の更新時期も考慮
し、引き続き活用を図っ
ていく。

自衛隊ヘリコプターによる 騒音対策は

答 早速基地を訪問して申し入れを
行った

中西 敏雄 議員

問 以前から多気町
一円にわたり、
自衛隊明野基地から発
進するヘリコプターに
よる騒音がひどくなっ
ている。

これは、数十年以上
も前に玉城町蚊野地区
にヘリコプターの離発
着基地が設置されたこ
とによる。

基地の設置について
は、多気町も候補に
上がったが当時の多気
町議会は反対の議決
を行った。そのため隣
の玉城町への設置が決
まった。それも多気町
(土羽)に一番近い地
域に設置された。こ
のことにより玉城町は
小学校の防音冷暖房の
校舎等の周辺整備がさ

れ、毎年相当の交付金
を受けている。ところが
ヘリコプターは玉城
町上空より多気町上空
の方がよく飛ぶ。私は
自衛隊に反対している
わけではなくむしろ組
織の充実発展を願う者
である。

今年の秋口はテレビ
の音が聞こえないほど
の騒音が毎日のように
繰り返された。

またホバーリング時
は想像を絶する騒音で
ある。

たとえ同じ騒音だと
して金銭的に享受して
いる町と騒音だけ受け
ている町との違いはど
こにあるのか、私は納
得できない。町長はこ
の現状をどのように把

握しているか聞く。

答 (総務税務課長)

町長の命を受け
航空学校を訪問し低空
での飛行を少なくする
よう要望をしてきた。

また騒音が一定基準を
満たせば法律により周
辺整備事業があるとの
話を聞き、一度調査を
するよう申し入れていく。

答 (町長)

周辺事業につい
ては、活用できるもの
はやっていくので記録を
取っていただきたい、で
きればビデオ撮影をお
願いたい。



飛行中の自衛隊ヘリ

役場庁舎の電力契約を独立系電力会社（PPS）に変更し経費を節約しては

答 三重県庁等、大口契約がPPSから受電を始めている多気町も検討

問

契約電力50kW以上の事業者であればPPSから電力を購入できる。PPSは原発を保有しておらず、風力や水力、太陽光発電など再生可能エネルギーを多く取り入れている。

50kW以上の契約をしている公共施設は何箇所あるのか。

未来の子どもたちの為にも原発に依存しない社会を作る必要がある。将来にわたる町のエネルギー政策として電力の地産地消、小規模なバイオマス発電所等を行政、住民、企業

西川 浩 議員

答

（総務税務課長）

多気町の公共施設で50kW以上の契約をしている施設は24カ所。三重県庁などが一部PPSとの受電契約を行っている。

答

（企画調整課長）

クリスタル工業ゾーンへのバイオマス発電

所の誘致を目指し、複数企業と話し合いを行っている。

ブータンに学ぶ総幸福量の多い町へ

答 公約の実現が町民の幸せにつながる。

問

ブータンが提唱する国民総幸福量。

物質的、金銭的豊かさを追いつめるのではなく、精神的な豊かさ。人のつながり、環境、安心、自由な時間の使い方など、多気町も幸福量の多い町を目指すには何が必要か。

答

（町長）

国、地域によって幸せの条件は違うので一概には決められないが、先人たちが築き上げた今の豊かな経済、社会に感謝し、多気町の豊かな自然を生かし、公約した施策を着実に実現していくことが幸せにつながると信じている。

住民自治協議会を創設し地域の活性化を

答 地元から要望があれば応援する

問

本年度提示された基本構想の最優先施策の中に「住民と行政の協働、住民自治活動の支援」が明記されている。現在画一的になりがちな行政サービス、住民と協働による地方分権、地域内分権を進めていく施策であり、まさに地域住民が関係するさまざまな問題を、地域住民が地域のことを計画、行動をして、やりがいと張り合いが持てる地域づくりを進めていくべきと考えるがどのように進めるのか。

また、町長は「ええ町懇談会」を開催したが、住民の何%ほど参加され、どのような話

中野 正宣 議員

があつたのか。

また、その結果はどのように町政に反映されるのか。

答

（副町長）

現在自治体の12・2%が条例を制定している。その主眼とするところは、住民主体のまちづくりを通して住民自治を実現するところにある。目的は広域化に伴う住民サービスの低下に対処したり、補助金の整理統合合理化である。これらの協議会は行政側からの働きかけで設置されている。今後住民の主体的かつ自立的な自治に向かうものであれば必要な応援や援助を一緒になって取

り組みを進めたい。

答

（町長）

今回6地区で行った「ええ町懇談会」の参加者数については、表すような%にはなっていない。私はこれで町政をやつて行くとは思っていないが、新しい町づくりを考えるのであれば全地区をまわる思いである。また懇談会のなかでの、放課後児童クラブについては預かり児童数が10人に満たない場合、国・県の補助金が出ないことから、一カ所で行ったほうが設備費等も含め経済的という思いでありご理解をいただきました。



環境保全向上対策会議風景

獣害対策レポート

防除柵設置進む

町内多くの地区の方より農産物の被害対策要望が寄せられ、また、議員からの一般質問も出ている獣害被害対策を報告します。

今年度より、鳥獣による農林水産業等に係る被害防止のための特別措置に関する法律に基づき、「多気町鳥獣被害対策実施隊」が編成されました。獣害被害に対して素早く対応できる体制をつくり、農作物等の被害軽減に努めています。

また、新しい試みとして多気町鳥獣害防止総合対策協議会と地元住民が主体となって、大型誘導捕獲わなを設置し、来年度より本格的に運用することにより、有害鳥獣の一斉捕獲が期待されます。

さらに狩猟者の育成としまして今年度新たに9人の方が、

わなの狩猟免許を取得され猪・鹿の捕獲をして個体数調整に取り組んでいただいています。

今年度も昨年度に引き続き沢山の集落から獣害防除資材の要望があり、地元の出合い作業による総延長約25kmを設置していただきました。設置地区の皆さんに感謝申し上げますとともに、獣害被害の減少が多いに期待されています。

取材を通じ獣害被害対策は行政の対応だけでは難しく、地区の皆様が地域の課題であると認識を持ち里山の地域活動を復活させ、皆で取り組んで頂く事が重要であると感じました。



獣害防除柵設置作業



大型囲い罠

議会のうごき

11月 November

- 22日 議会広報特別委員会
- 24日 議会運営委員会
- 28日 第3回臨時会

12月 December

- 6日 議会運営委員会
- 13~16日 第4回定例会
- 20日 多気町松阪市学校組合議会
- 20日 多気学校給食センター管理組合議会
- 21日 松阪地区広域衛生組合議会
- 21日 松阪地区広域消防組合議会
- 26日 宮川福祉施設組合議会

1月 January

- 8日 多気町成人式
- 15日 多気町出初式
- 16日 自治体議員研修会
- 19日 三重大バイオプラスチックプラント視察
- 20日 県議長会理事会
- 24日 議会広報特別委員会
- 31日 広報研修会

2月 February

- 1日 議会広報特別委員会
- 6日 市町議会と県議会との交流・連携「全体会議」
- 10日 議会広報特別委員会

インタビュー 多気のまちかどから

更生保護

ひとすじ32年

多気郡保護司会 会長

村川 浩さん（72歳）



村川 浩さん

▽このたびの瑞宝双光章の叙勲
誠にありがとうございます。

一言ご感想をお聞かせ下さい。

☆たいへん重みのある荣誉に浴し身の引き締まる思いであり、更生保護、地域の犯罪抑止など保護司活動に一層の精進を重ねたいと思います。

▽保護司の役割は。

☆社会奉仕の精神に基づくボランティア活動です。犯罪を犯した人の更生と保護、そして社会復帰をサポート

する役割の他、犯罪予防の啓発活動を通じ公共の福祉に寄与する使命があります。

▽保護司として32年のキャリアはすごいと思いますが、長い活動の中でご苦労されたことと思いますか。

☆保護司は守秘義務があり概略でしか述べられませんが現状は「再犯率が高い」ことがあります。再犯を重ねないためにも、出所後の就職を支援し、雇用を受け入れてくれる社会や職場が必要です。

犯罪には色々あるが、薬物の乱用が叫ばれている中で、中学校との連携で乱用防止の啓発に力を入れており、子どもを犯罪から守る活動も保護司の役割です。

▽「社会を明るくする運動（社明運動）」が毎年展開されていますが、どのような活動ですか。

☆この運動は、法務省の提唱により始まりました。毎年7月を運動月間として色々な啓発活動を行なっています。

昨年は、第61回目として相可高校食物調理科の生徒の皆さんにもお手伝いいただき、朝から校門前で犯罪の抑止

PRに一役買ってもらいました。その外、地域の皆さんに保護司活動に対する理解とご協力いただくためのミニ集会の開催、また多気郡と松阪市、玉城町などからの親子が参加して行う「組み立て飛行機大会」の開催など、青少年健全育成にも参画しています。

▽今後の保護司活動を多気郡の会長として、犯罪を犯した人たちへの社会復帰や認知や偏見をどのようにリードされますか。

☆更生保護の原点は、対象者は執行猶予判決などで、そのほとんどが元の地域に戻り生活することになりますから、再び犯罪を犯さないためにもしっかりと立ち直りを支える地域の「チカラ」が必要です。地域のみなさんが暖かく迎えていただくことが重要と思っています。

▽最後に「議会だより」の感想をお聞かせします。

☆議会広報は、町民の皆様が読みやすい「議会だより」にするために、大きな字体で字数の少ない方がいいと思います。より良い広報誌になることを期待しています。

次回定例会の予定

《開催日時》

平成24年第1回定例会
3月7日(水)午前9時から(予定)

《開催場所》

庁舎2階 本会議場

一日目の町長の提案理由説明までと、一般質問の様子は多気町行政チャンネルで生放送します。
また一般質問は録画放送もします。

放送日時等は、決まり次第行政チャンネルでお知らせします。

たきの風

信頼が揺らぐことが人々を不安におとし入れる大きな要因となる。

原発安全神話の崩壊。電力会社の情報操作、隠ぺい。年金をはじめとする社会保障制度。

行財政改革、消費税、TPP等政府の対応。

今、私たちが本当に信じられるものがどこにあるのか？

少なくとも生活に密着する私たちの町の行政は、信頼できるものでなければいけない。

私たち議員は、チェック機能を高め、住民に信頼される議会であるために全力をつくしていく。

(H.N)